



「家庭学習」

「家庭学習」については、その在り方や実施方法等について、学校評価アンケートや保護者会等で、保護者の皆さんからご意見をいただきました。それをうけ、これまで、浅江中学校のコミュニティ・スクールの仕組み(=三層構造)の中で、「家庭学習」について意見交換を進めてきたところです。

<協議された場面>

○学校運営協議会 ○企画推進委員会 ○教員プロジェクト部会 ○OPTAプロジェクト部会

さまざまな協議の様子を見ていて感じたのは、家庭学習のあるべき姿や捉え方は、大人(保護者も教職員も)によってまちまちであること、考え方が多様であるということです。

<捉え方・考え方>

- もっと宿題を出した方がいい!!
- 自主学习ノートは毎日出させるようにしてほしい!!
- 漢字や単語をひたすらノートに書き込むのは、学習と言えるのだろうか?
- 教科の先生が、教科の責任で課題を出してほしい!!
- 担任の先生が自主学习ノートを見ると、担当教科外の部分もあって、学習の評価が曖昧になるのでは?
- 家庭学習はあくまでも家庭が責任をもつべきでは?学校にはそのサポートをしてもらっているという捉えが必要では?
- 子どもに任せて、自主性を尊重する必要がある。
- 宿題は必要?不要なのでは? etc



<ちょっと立ち止まって考えてみます!!>

□そもそも家庭学習って……?

日本の学校で導入されはじめたのは、明治からのようです。授業で学んだ内容を、定着させるために機械的に宿題が与えられるようになり、「家庭でも学習の習慣を根付かせ、成績を上げる手法」として、近年まで根付いている取組です。明治以前は、子どもが自宅で勉強をするということはあったようですが、現在のように、だれかが課題を与えるものではなく、自発的におこなっていたようです。

□これからの時代は……?

すでにデジタル技術の急速な進化等、これまで経験したことがないような変化が起きています。こうした出来事が次々と起こる現代は、VUCA(ブーカ)の時代とも呼ばれます。VUCA(ブーカ)とは、変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity)の頭文字を取ったものです。そんな激動の社会を生き抜く子どもたちに、これまでの経験則が通用するのでしょうか?

□浅江中の家庭学習の再定義「なぜ家庭学習を推奨するのか?」

自分の成長に必要な課題を見つけ【気づき】、それを工夫しながら克服する術を見つけるとともに、先を見通した学習計画を立て【考え】、実践する力を養う【行動する】ため。

⇒ 『気づき・考え・行動する』生徒の育成につなげるため!!

学校では、来年度のスタートに向けて、家庭学習の在り方や具体的な取組等について、教員間でさらに対話を進めながら、現在、未来に生きる家庭学習を模索していきます!!